

達人がナビ!

アジアのBEST SPA 20

スパを求め世界を飛び回る「スパの達人」たちに聞いた、それぞれにとっての「アジア・ベスト・スパ」。セレクトから見えてくる、アジアのスパが注目されるワケとは?

伝統に根ざした
多様な施術プログラムが
アジア・スパの魅力です



マイケル・ローさん

● Spa Asia 発行人・編集長

シンガポールを拠点に世界に発信するアジアのスパ情報誌「Spa Asia」を2002年に立ち上げ、「ウェルネス・サミット」等の会議も主催するスパ業界の牽引役。



↑雑誌は隔月発行。世界各国のスパ・ジャーナリスト、プロが寄稿している。3月には姉妹誌「Spa Arabia」が発刊予定。

アジア広しといえどもオセアニア諸島、中近東、そしてアフリカ諸島までも準備範囲として常に駆け巡るローさんは、まさにアジア・スパの生き字引的存在。「この5年でアジアのスパに対するイメージはずいぶん変わってきました。アジアには、アユールヴェーダ、中国漢方など、古代の知恵を踏襲した施術のオプションがたくさんあり、体質改善、ライフスタイルそのものを変える力を持ったプログラムがそろっています。それを求めるスパ利用者たちの要望も高まり、リゾートの気持ちよい空間でマッサージを受け、花びらに埋め尽くされたバスhtubに入って終わり、という体験だけでは飽き足らなくなってきました。スパはエッセンスや瞑想、食事法なども含めた総合的なアプローチで、よりよいライフスタイルのあり方を体験することができるところへと成熟してきているのです」

東洋の英知を結集し、さらに最新のテクノロジーも取り入れた、ウェルネスを目的とする滞在型スパ・リトリートが増えてきている。「スパ・リトリートへ自己発見の旅に出かけよう」

「スパの体験とは、施術のよさだけではなく、美しい自然、静けさと安らぎに囲まれ、風を感じ、深い緑を呼吸する。都会では聞くことのない野犬の鳴き声までが心身を解放してくれます。リトリートでの時

間と体験は、そのまま自己発見の旅となるのです」

元は会社人間だったというローさんは、どうやって日常の忙しさをストレスから解放されるべきか、心と体の関係に常に関心を払ってきた。その探究心が「Spa Asia」を立ち上げるきっかけに。数日の滞在でも万全の効果を！と望む忙しいハナコ読者へのアドバイス。

「よい施術を受けるためには、自分の要望をしっかりと伝えることが重要です。経験のあるシニアセラピストをリクエストするのも忘れずに！」

3月には128地域を網羅した「アジア究極のスパガイド」が出版予定だそう。こちらも楽しみです。

ストレスから解放し、ウェルネスへと
響く滞在型リゾート・スパ体験。

1位

コモ・シャンバラ・エステート・アット・ベガワン・ギリ/インドネシア・バリ
セレブにも人気の高いホテル・ベガワンギリがスパ・リトリートに進化している。アユン川の水を最新技術で浄化させた「バイタリティプール」は〇。

2位

マンダリン オリエンタル ダラ デヴィ/タイ・チェンマイ
伝統的なタイ文化を取り入れた平穏と安らぎのバランスが絶妙にとれている空間で、そこで受けられるオーセンティックなセラピーがよい。

3位

ザ・ファーム/フィリピン・サンペニート
広大な敷地にメディカルセンターも備えた総合的なヘルスリゾート。よい意味でローカライズされた、クリーンな静けさがとても心地よい。

4位

スパ ヴィレージ/マレーシア・パンコル島
地域の文化と自然を見事に統合させたスパとして高く評価できる。それだけではなく、施術もしっかりしており、すばらしい体験ができる。

5位

フォーシーズンズ/タイ・ゴールデンライアングル
絶好のロケーションに客室は15のテントだけというところがまずよい。森の中でのスパ体験はまさに魅惑的&素晴らしいようがない。

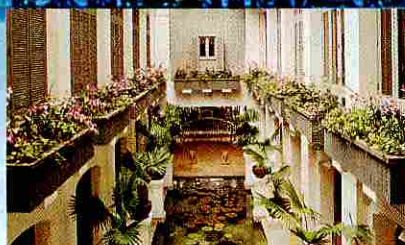


↑バリ島きってのリゾート内の「シャンバラ・スパ」(P.34)。



バリ島のウブド地区にあり、景観のすばらしさは抜群。

- 1位 キラーナ スパ / インドネシア・バリ
- 2位 マンダラ・スパ (ホテル・パドマ・バリ) / インドネシア・バリ
- 3位 プラナスパ / インドネシア・バリ
- 4位 ハイビスカスガーデン・スパリゾート / オーストラリア・ポートダグラス
- 5位 シックスセンス・スパ (エバソン・ブーケット) / タイ



↑世界を代表するスパのひとつ「ザ・オリエンタル・スパ」。

- 1位 ザ・オリエンタル・スパ(ザ・オリエンタル・バンコク) / タイ・バンコク
- 2位 チバソム インターナショナル・ヘルスリゾート / タイ
- 3位 マンダラ・スパ(パークホテル沙留) / 東京
- 4位 ザ・スパ アット マンダリン オリエンタル (マンダリン オリエンタル 東京) / 東京
- 5位 ザ・スパ (フォーシーズンズホテル・シンガポール) / シンガポール



↑7000㎡の敷地が広がる「レジデンシャル スパ&クラブ」。

- 1位 アイサワン レジデンシャル スパ&クラブ (クランドハイアット エラワン バンコク) / タイ・バンコク
- 2位 リッツカールトン バリ タラソ&スパ (リッツカールトン バリ) / インドネシア・バリ
- 3位 ザ サリュー ヘル アクア (ザ ファーム アット サンベニート) / フィリピン
- 4位 ザ・ベニンシュラ・スパ(ザ・ベニンシュラ香港) / 香港
- 5位 チ・スパ(シャングリラ マクタン アイランドリゾート) / フィリピン

世界各地のスパへと足を運ぶ荒木実さんが重視しているのが環境などという。「設備だけで豪華さを競ったり、よいセラピストだけを集めたりという傾向もあるなか、真のスパを理解しているところは必ず環境にこだわっていますね」

そんな彼が選んだベスト・スパの3つはバリ島に。「キラーナ・スパ」は渓谷を貫通しながらのトリートメントもできることながら、

気に入ったスパのチェックを友人にプレゼントするという甘糟りり子さん。相手が男性だと、スパに目覚めるきっかけになって、喜んでくれたりするのだとか。ホテル内にありながら川を船で渡っていく「ザ・オリエンタル・スパ」や「都会での生活が幻のように思えてくるほどカルチャーショックを受けた」「チバソムインターナショナル・ヘルスリゾート」が上位に。

5種類のバスが楽しめる「マンダラ・スパ」、高層階にあり、暗くなると夜景の中に放り出された気分が「ザ・スパアットマンダリンオリエンタル」など、東京のスパもランクイン。「施術を受けながら、そのとき一番悩んでいることを考えることが多いのですが、半分うとうとしはじめると、案外それが些細なことに思えてきたりして、気分転換になります」

スパジャーナリストとして国際的に活躍するリスさんが絶賛するのが、バンコクの「アイサワンレジデンシャルスパ&クラブ」。「リゾート気分を満喫させてくれる、バンコク市内のベスト・スパです。また「リッツカールトンバリタラソ&スパ」は特に海の中に浮かぶような幻想的でゴージャスなトリートメント「スパオン・ザ・ロック」がおすすめ。バリの神祕を

体感させてくれます」一方、山を望むインフィニティプールが印象的な緑と水に抱かれたヒーリングリゾートでは「ザサリューベルアクア」を、トリートメントでは「ザベニンシュラ・スパ」を薦めてくれた。「スパでは、スピリチュアルなヒーリングは求めないけど、トリートメントでたっぷりと身体を癒やしながら、私自身と向き合う時間にしたいわね」

スパの神髄はトリートル・スパ・ダンス。まず環境が大津なものです。

景観や雰囲気など、非日常を感じられるようなさまざまな演出を重視します



荒木実さん

●アラン株式会社 代表取締役社長

1964年長崎生まれ。オンラインアクティビティ予約サイトを運営し、世界各地のスパの検索と予約を手がける。現在バンコクのスパを調査中。

スパには身体の外側ではなく、内側の効果を求めます。

きめ細かい心遣いや手先の器用さはアジアのほうが優れている気がします



甘糟りり子さん

●作家

横浜生まれ。ファッションやレストランなど先端の文化を映した小説やコラムが人気。新作の著書に『モーター0467 鎌倉物語』(小社刊)

スパは忙しい日常の中で、自分自身を取り戻すための場所。

アジアのスパは、インスピレーションの源、スパカルチャーの原点よ



リス・スマイルさん

●スパジャーナリスト

7か国語を駆使してスパリゾート、アート、カルチャーなどの話題を追って、東南アジアを中心に活躍するジャーナリスト。現在はバンコク在住。

スバ歴6年 長瀬哲朗
NAGASE TETSURO
ファッションスタイリスト

スバ歴3年 中村貞裕
NAKAMURA SADAHIRO
㈱トランジットジェネラルオフィス
代表取締役社長





スパ……それは、 ボクたちの気持ちを解放し、 ソフトに、エレガントに、 本来の姿に導く魔法です。

スパ歴10年？
男子4人の
「スパ Love 談議」
@amour spa & suites

荒木 「初めてスパに行ったのは、確か前の仕事の出張で泊まったホテル。スパがついてたんです。いまでもけど当時も、(笑) 仕事で忙しくて疲労困憊でね。ただのマッサージだと思って受けたら、これ

が想像以上に気持ちよくて精神的にとっても癒やされたんだ」
柴田 「あ、僕もです！ 約10年前、パリで国営の『ヌサドゥアスパ』を体験してはまりました。異国の土地が、さらに自分を現実から遠ざけた。以来、見知らぬ地のスパで自分を解放するのが好きです」
中村 「人々がドンドン海外に行つて、スパカルチャーの洗礼を受けた。これがいまのスパ人気を引き起こしたんでしょうね。いまならベツカム夫妻をはじめ、ナオミ・キャ

ンベル、ヨシ様までも滞在したタイの『チバソム』なんて行つてみたいですね。長期滞在型のスパホテル。駐在の医師による健康診断を受けたら、自分専用のトリートメントやオーガニックフードメニューを作成してくれるとか。僕も、こんなところで入院するみたいにならしたい」
長瀬 「昔から疲労回復のために指圧とかサウナは行つてたけど、これって、癒やしてくれる」とは、ちよつと違う。いわゆる、局所的な疲労との

スパ歴10年 柴田伸介

SHIBATA SHINSUKE

(株)リラックスコーポレーション
代表取締役社長

スパ歴10年 荒木篤実

ARAKI ATSUMI

アラン(株)代表取締役社長



スラッといきました。男ばかりのスパ談議。ここは柴田さん経営の「アムールスパ&スイーツ」、ラウンジスペースです。

スパは最低でも2〜3時間必要！
「優雅な時間を買う」贅沢を感じたい。



「アムールスイート」という名のとおり、12坪という広いスペースが◎な部屋。2名間で、カッブルでの利用も可。

聞いて！ですよ。スパに求めるのは香りとか、音、ロケーションだったり。全部の要素が、自分を一番リラックスさせてくれるものでないと。そういう意味でラクシャリーホテル内のスパは行きやすい」
中村 「そうそう、ちよつとミィハー話なんだけど、最近では高級レストランより高級スパに女性を誘ったほうが喜ばれるって聞きましたよ。彼女たちにとつてうれしいプレゼンツ的な存在とか。カッブルで行けるスパも増えましたよね」
柴田 「そのうえ、男性客の比率がとつても高まっているんですよ。特に去年の夏くらいから。スパ施設の増加はもちろん、男性の美に対する意識が上がつているんでしょうね。うちの店にも、花の入ったお風呂に入りたいって、ロマンティックな客が多いです」

荒木 「男だから美肌効果とかそこまでのことじゃないんだけど、自分へのご褒美かな」
長瀬 「東京に比べると、仕事の関係で自分がとてもクイックに動いている。だから指圧とか、酸素カプセル30分とか、クイックに治療してくれるところにいきがちかな。僕にとつてのスパって、自然の中で、時間を贅沢に使う感覚。高級ホテルに行って、優雅な気持ちになつて、スパ終了後にラウンジでお茶して……。このラクシャリー感が、僕をソフ

東京のネオスタイルは、スパの気高さの中にある。



中村貞裕さんの好きなスパ
「青山の『シンシア・ガーデン』(写真: <http://www.sincere-garden.com>)は、セラピストの腕が高い。オイルマッサージ最高！ 海外はモルディブの『ワン&オンリー・モルディブ・アット・リーティラ』(<http://www.oneandonlyresorts.com>)。扉の先にある海の景色は圧巻」



長瀬哲朗さんの好きなスパ
「海外だったら、絶対『ハمام』。アラブ圏の国々で親しまれている蒸し風呂タイプのスパ。噴水囲って、スチームあたって、体中にタオルを巻く。これぞ究極のリラックス！ 日本で最近よく通っているのはインドエステ『カブール六本木』(写真: <http://www.kabul-tokyo.com>)」



女性をエスコートできる男なら、
スパの世界にすんなり入って行ける、はず。



「アムールスイート」内のバスルームで、荒木さんがリラックス。長時間の滞在で、ゆで顔に（P73）! 荒木さん、感謝です!

グループは小さくても、超有名シェフのレストランにご飯を食べに行く。家が狭いなら、スパを自分のバスルームにしちゃう。そう、銭湯気分です。こんな感覚を持って、東京のスパを生活にもっと取り込むのって新しいくないですか？」

長瀬 「いやあ、新しいですよ。うね。そうだなー、東京ってそういうところなのかもって改めて思いました。ただ一つ、やっぱりいい意味でスパの敷居は、ある程度の高さをキープしてほしいと思うんです」

癒やしの世界に大切なのは「上品」に振る舞う感覚。

荒木 「そうだね。食の世界も、3つ星レストランからファストフードまでそれぞれの役割があるからこそ、高級を認識できるわけで。スパに星がつく日も来るのかな?」

長瀬 「ただね、男性の中にはオシャレで贅沢、みたいなことに拒否反応を示す人がいる。彼らにとっては、やっぱりまだスパは身近でないのかも。女性を自然にエスコートできる男性は、スパの世界にもすんなり入っていきける気が」

中村 「スパって、なんか目に見えないマナーがある。高級レストランに行ったときのマナーみたいな。自分を上品に見せる感覚。まだまだ日本男性の中には、紳士でいる

ことに苦手な人がいると思うけど、スパにもこの世界のマナーが重要ですよ」

荒木 「話は変わりますが、セラピストさんが部屋に入ってくるって、なんだかドキドキしませんか? だって密室ですよ! しかも1対1。ある意味、男と女の関係!」

長瀬 「セラピストさんが男性という経験とかありますか? ちなみに僕はお断りなんです、必ず女性を指名しますが」

荒木 「僕も男性は絶対イヤ（笑）たまたま彼らの技術や力が上がったとしても、やっぱり女性に癒やされているというあのソフトさが大事ですよ」

柴田 「圧力的には、男性セラピストのほうがよかったです。まあ、2人の相性次第かな」

長瀬 「僕は取材の前に、ここアムールスパ&スイーツのオイルトリートメントを受けたんですが、いやー、相性バツチリでした。すっかり熟睡です」

柴田 「光栄です。（笑）」

荒木 「施術後に、ホテルのラウンジで庭の緑を見ながらお茶するのもよさそうですね」

中村 「近年のラクシャリーホテルブームで、ホテル自体に関心が高い。で、『ザ・リッツカールトン東京』、『ザ・ペニンシュラ東京』ができる2007年は、もうみんなスパ行きまくりでしょ。（笑）」

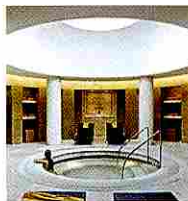


柴田伸介さんの好きなスパ

「モルティフの海中スパ『フヴァフェンフシ』（写真：<http://huvafenfushi.com/>）。信じられないロケーションと、言葉では表現できない美しい海&砂に囲まれ、異次元にトリップ。『パニヤンツリースパ』も◎。スパ技術のレベルが非常に高い。国内のスパはほとんど行きません」



柴田伸介 広告代理店入社後、'95年リラクソコーポレーション設立。バンコクでタイマッサージセラピスト等の資格取得。『amour spa & suites』はじめホテルスパ3店舗など経営。



荒木篤実さんの好きなスパ

「何しろ箱根の高級旅館『強羅花壇 KA DAN SPA』（<http://www.gorakadan.co.jp/>）。そのサービスレベルの高さに今後の旅館のあり方を思う。イタリアの本格的な温泉付きスパ『テルメ・ディ・サトゥルニャ・スバリゾート』（写真：<http://www.termedisaturmia.it/>）もすばらしい」



荒木篤実 日産自動車入社後、'91年アラン設立。バリ、ハワイなどを中心に海外オプションツアー・アクティビティ予約専門サイトを運営（<http://www.alan1.net/>）。